

答

移住を伴う新規就農人材の発掘は、東京や大阪などで開催されるイベントに参画することで、直接的に掘り起こしを図っている。

農業の就農形態が多様化する中、本市に移住して就農したいと考えるかたの足がかりとなるよう、農作業体験ツアーなどを通して本市の農業や地域の魅力を感じていただくことは、移住の大きな後押しになると考えている。

今後は、既に実施している農村での移住者向け空き家見学ツアーなどと連携し、仕事と住まいの情報を一体的に提供するなど、効果的な事業展開に取り組んでいきたい。

佐々木 充 議員



(一般質問)

- 1 高校への進学について
- 2 若者の市政や地域づくりへの参画について

市内の高等学校が

選ばれる取組を！

問

近年、市外の高等学校を選択する生徒が急増している。都市部への若者の流出に歯止めをかけ、生まれ育ったふるさとで進学・就職する地学地就という考え方もあるが、市内の高等学校における定員割れが顕著である現状をどのように認識しているのか。

また、6月定例会において、市内の5つの高等学校と連携し、選ばれる学校づくりを目指すとの答弁があったが、その後、どのような連携を図ってきたのか。更に、市内の高等学校への進学率を向上させる取組について、どのような考えがあるのか。

答

平成29年度に市外の高等学校などへ進学した生徒は約34パーセント、また、平成29年11月の進路希望調査において、市外県立高等学校への進学を希望する生徒は21パーセントであった。こうした現状に、市としても危機感を抱いており、市内の中学校

や高等学校といっそうの連携・協力が必要と考えている。教職員間においては、これまでも、各種連絡会、相互の授業公開、合同での見守り活動など、中学校と高等学校が連携した取組を実施してきた。

平成30年度からは、更なる連携の強化に向け、市内中学校・高等学校校長連絡会を定期的に行うこととしており、市内高等学校への進学率の向上に向けた取組についても、話し合っていく。

また、生徒間においても、部活動や体験活動、各種イベントなどで交流が行われており、こうした活動を積極的に周知し、参加を促すことで、市内の高等学校をアピールしていきたい。



高校説明会の様子(丹原西中学校)

公明党

西条市議員団

越智 絹 恵 議員



(一般質問)

- 1 ヘリコバクター・ピロリ感染検査事業について
- 2 産後ケアについて
- 3 新婚世帯への生活支援について

検査対象拡大を！

ヘリコバクター・ピロリ 感染検査

問

中学2年生を対象とした検査の実施説明会を保護者を対象に開催したが、参加状況はどうであったのか。また、今後、検査対象者を拡大する考えはあるのか。

答

説明会の参加者数は、対象者1千23名のうち

51名と少なかったため、今後は案内方法を工夫するなど、参加促進に努めたい。

検査対象者については、①ピロリ菌の保菌率や胃がんの罹患率が50歳代から急増している、②国の指針において胃がん検診の対象年齢は50歳以上が望ましい、③胃がん予防のためには少しでも早い時期が効果的である、④除菌治療に適する体格となるのが中学2年生程度であるなどの理由により、平成29年度から50歳と中学2年生を対象に取り組んでおり、引き続き、この検査対象者で実施を続けていきたい。

城戸 力 議員



(議案質疑)

- 1 小学校及び中学校就学援助事業について
- (一般質問)
- 1 ICT教育について